令和６年度　基本評価調書			所管部局	経済部	所管課	次世代半導体戦略室	
施策名	半導体関連産業の振興				施策コード	0511	
政策の柱	デジタル				政策体系コード	1(4)B	
関連重点戦略計画等	知事の基本政策					事務事業数	9
特定分野別計画	北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン						
SDGs					総合判定	概ね順調	
予算額（千円）	R6	100,934千円	R5	120,990千円	R4	－	

施策目標	ラピダス社の立地を契機として、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点を実現し、すべての産業へのDX化を進める「北海道デジタルパーク」を展開する中で、その効果を道央圏のみならず全道に波及させ、本道全体の活性化と持続的発展につなげる。
現状と課題	（次世代半導体製造拠点整備への支援） 複合拠点の実現に向けては、まずはラピダス社が進めている次世代半導体の量産技術の確立を成功させることが何よりも重要であり、必要な支援に迅速に取り組む必要がある。 （複合拠点の実現） 複合拠点の実現に向けて「半導体関連産業の集積」、「イノベーションの創出」、「人材の安定供給」に取り組んでいく必要がある。 （全道への効果の波及） 本道に優位性のある農林水産業や観光業などの産業や暮らしのスマート化を図るデジタルの好循環を全道展開するとともに、関連投資や関係人口の拡大などの効果を積極的に取り込み地域の付加価値の向上を図ることによって地域経済の活性化につなげる必要がある。

〈主な取組〉

今年度の取組	（次世代半導体製造拠点整備への支援） ・ラピダス社が目指す2025年のパイロットライン稼働、2027年の量産製造開始に向けて、国や千歳市などと連携し、インフラ整備や人材育成など、必要な支援に取り組む。 （複合拠点の実現） ・半導体エコシステムを構築するため、コーディネーター等を配置し、地域のニーズや課題等を踏まえた産学連携の取組などを通じて、産学官の関係者によるネットワークの構築・強化を図る。 ・国内外の半導体関連の展示会に出展するほか、道内企業の半導体関連産業への参入促進を図るビジネスマッチングセミナー等を開催し、関連産業の集積に向けた取組を実施する。 ・高校生を対象とした出前講座や小中学生を対象とした体験教室等を開催し、まずは若年層に対して興味関心を持ってもらうための取組を実施する。 （全道への効果の波及） ・ラピダス社のプロジェクトや半導体・半導体関連産業などについて、道民の皆様の理解を深めていただくため、14振興局すべての地域でセミナーを開催する。
実績と成果	（次世代半導体製造拠点整備への支援） ・ラピダス社の2027年からの本格稼働に必要な水の確保に向けて、取水可能性等についての検討を実施し（有識者懇話会を3回実施）、道として水源候補地を苫小牧地区工業用水道に決定した。 （複合拠点の実現） ・半導体関連産業の集積を図るため、半導体に関する全国的な展示会への出展（R5.10：名古屋、R5.12：東京、R6.2：熊本）や道内企業の半導体関連産業への参入促進・取引拡大を目指したビジネスマッチングセミナーを開催した（R6.1：205名参加）。 ・若年層が半導体や半導体関連産業への理解を深めるため、道内6カ所で出前講座を開催したほか、半導体に関するアニメ動画を作成・提供した。 （全道への効果の波及） ・道民の理解促進を図るため全道6カ所（北見、旭川、釧路、苫小牧、函館、札幌）でセミナーを開催した。 ラピダス社の立地を契機に複合拠点を実現するとともに、食や観光、再生可能エネルギーなど本道の強みである産業振興と合わせて、本道経済全体の成長に結びつけていくため、今後の指針となる「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」を策定した（有識者懇話会開催3回、道内企業への訪問37件）。

参考HP①	次世代半導体産業立地推進ポータルサイト　https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/jhs/index.html
参考HP②	
参考HP③	

令和6年度 基本評価調書	【1(4)B_0511】半導体関連産業の振興

〈指標分析〉 ⇒成果指標は、原則、取組項目ごとに1つ以上、全体で5つ以下とする

指標名①	増加	億円	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
半導体関連企業の出荷額		目標値	－	－	－	13,162.0	－	－
		実績値	1,767.0	2,108.0	2,706.0			

設定理由	本指標は、道内半導体関連企業の出荷額の実績であって、複合拠点の実現に向けた「半導体関連産業の集積」の取組の成果を測る指標として設定。 ※年度ごとの目標値については、次世代半導体の量産開始時期を考慮し設定しない。
指標公表時期	毎年調査、公表時期検討中
出典(根拠計画等)	経済産業省「経済構造実態調査」

分析(主な取組と成果)

本施策はR5年度より開始されたため、直接、各取組と成果を結びつけるデータは無い。しかしながら、各セミナーへの参加者数などから道民の関心の高さがうかがわれ、まずはラピダス社のプロジェクトの成功に向けて必要な支援に取り組むほか、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点の実現、全道への効果の波及に向けて継続して取り組んでいく。

指標名②	増加	億円	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
半導体関連企業による道内総生産への影響額		目標値	－	－	－	10,259.0	－	－
		実績値	－	－	－			

設定理由	本指標は、半導体関連企業の生産活動による道内総生産への影響額であって、全道への効果の波及に向けた「地域経済の活性化」の取組の成果を測る指標として設定。 ※年度ごとに目標値については、次世代半導体の量産開始時期を考慮し設定しない。
指標公表時期	令和16年度以降
出典(根拠計画等)	北海道経済部調べ

分析(主な取組と成果)

本施策はR5年度より開始されたため、直接、各取組と成果を結びつけるデータは無い。しかしながら、各セミナーへの参加者数などから道民の関心の高さがうかがわれ、まずはラピダス社のプロジェクトの成功に向けて必要な支援に取り組むほか、半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点の実現、全道への効果の波及に向けて継続して取り組んでいく。

指標名③			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	
指標公表時期	
出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名④			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	
指標公表時期	
出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

指標名⑤			R4年度	R5年度	R6年度	最終目標(R15)	達成率	指標判定
		目標値					－	－
		実績値						

設定理由	
指標公表時期	
出典(根拠計画等)	

分析(主な取組と成果)

令和6年度 基本評価調書	【1(4)B_0511】半導体関連産業の振興

〈取組分析（連携状況、緊急性・優先性）〉

連携状況	(課題) 次世代半導体製造拠点の円滑な整備、稼働をはじめ半導体の製造、研究、人材育成等が一体となった複合拠点の実現、全道への効果の波及に向けて、関係機関が密接に連携しながら効果的・機動的な支援を進めることや、周辺市町村及び商工団体をはじめ、道民の皆様の理解を得ることが必要。 (取組と成果) ・(一社)北海道新産業創造機構と連携し、道内企業がラピダス社の工場の運営に必要な役務や物品の調達業務に参入できるように情報提供を実施した。 ・北海道次世代半導体産業立地推進連携会議を開催し、関係機関で情報共有を図るとともに、R5年度に設置した関係市町村からなる市町村ネットワークを活用して適宜情報の共有を行った。 ・国が設立した「北海道半導体人材育成等推進協議会」に参画し、道内の行政や教育機関、経済団体、企業など幅広い関係機関との連携のもと、半導体関連産業の人材育成・確保及び関連産業の取引活性化に資する取組に積極的に貢献した。

緊急性 優先性	(課題) ・次世代半導体の製造拠点の円滑な整備、稼働については、国家プロジェクトであり、かつ2025年春のパイロットライン稼働、2027年の量産製造開始とハイスピードでプロジェクトが進行していることからその成功に向けて、まずは、周辺市町村及び商工団体をはじめ、道民の皆様の理解を得つつ、必要なインフラの整備や人材育成・確保等に迅速に対応する必要がある。 (取組と成果) ・次世代半導体の研究開発や製造拠点の円滑な整備や複合拠点の実現に必要なインフラ及び教育・住環境の整備等に向けた取組の推進、半導体関連産業の集積促進に向けた取組の推進などについて、国に対して要望した。 ・熊本県と連携し、国内半導体製造拠点の投資促進のため必要な支援や今後必要となるインフラ整備等への支援、産学連携における共同研究等の加速化などについて国に要望した。 ・国内半導体製造拠点の整備が進む6道県が連携して、産業集積・サプライチェーンの強靭化やインフラ整備等、安価かつ安定的でクリーンな電力供給について、国に対し要望した。

〈その他統計数値等〉

その他統計数値等①	最新年度
道内企業向けセミナーへの参加数	205名(R5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
本道では半導体関連産業の集積が低いため、複合拠点の実現に向けて道内企業の参入促進・取引拡大や国内外の半導体関連企業の誘致など道内のサプライチェーンの強化を図る必要がある。

(状況) 道内企業向けセミナーへの参加者数も多く、セミナー満足度も「満足」「やや満足」が3／4以上を占めるなど、道内企業の半導体関連産業への参入意欲は高いものと考えられる。商談参加者も具体的な連携イメージを持っているケースが多く、今後も道内企業の参入促進・取引拡大に向けて取組を継続していく必要がある。	a

その他統計数値等②	最新年度
出前講座の実施回数	7回(R5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
本道では、半導体人材が不足しているため、複合拠点の実現に向けて、教育機関等と連携し、半導体分野の認知度向上や教育内容の充実、即戦力人材の育成など人材の安定供給を図る必要がある。

(状況) 今後、ラピダス社の量産製造開始や関連産業の集積にともない、半導体人材が不足することが見込まれており、若年者の半導体への認知度の向上を図るための取組がさらに重要となることから、回数を増加するなど継続した取組が必要である。	a

その他統計数値等③	最新年度
道民向けセミナーへの参加数	1,669人(R5年度)

「施策目標」「現状と課題」に関する状況

(課題)
半導体関連産業の振興に向けては、行政や経済団体、企業、教育機関、支援機関と緊密に連携するとともに、道民の皆様の理解と共感を得る必要がある。

(状況) 道民の皆様の理解と共感を得るためにR5年度は全道6カ所でセミナーを開催し、合計1,669人が参加。約85%の方が「満足」、「理解できた」と回答している。参加者の主な関心は「ラピダス社の関心・動向」、「ラピダス社の進出による北海道及び各地域への影響・波及効果」となっており、道民の関心の高さがうかがわれる。今後も道民の理解と共感を得るために取り組みを継続する。	a

令和6年度 基本評価調書	【1(4)B_0511】半導体関連産業の振興

〈総合判定〉

指標判定	－	連携状況	○	総合判定	概ね順調
		緊急性・優先性	○		
		その他統計数値等	a		

※ 成果指標の指標判定が「D」の指標

（該当なし）

	対応方針番号	内容
翌年度に向けた対応方針	①	ラピダス社のプロジェクトの成功に向けて、インフラの整備など必要な支援に迅速に取り組む。
	②	複合拠点の実現や道内への効果の波及に向けて、R6年3月に策定した「北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン」に基づき各般の取組を戦略的に展開していく。

〈二次政策評価〉

二次政策評価	【施策の緊急性、優先性】 複合拠点の実現に向け、効果的・効率的な執行体制の構築を進めること。

〈ＡＣＴＩＯＮ〉

二次政策評価への対応	複合拠点の実現に向け、効果的・効率的な執行体制の構築を進めるてまいる。

	対応方針番号	方向性
翌年度施策の方向性	①	来年度は、パイロットライン稼働が予定されており、2027年の量産製造開始に向けて重要な年となることから、ラピダス社が掲げるスケジュールの達成に向け、引き続き、国や千歳市などと連携し、インフラ整備や人材育成など、必要な支援に迅速に取り組む。
	②	来年度新たに、複合拠点の実現に向けた中核的な事業として、札幌市及び千歳市と連携し、北海道大学・公立千歳科学技術大学の資源を活用して半導体の人材育成と研究開発を一体的に推進するほか、引き続き半導体関連企業の誘致や道内企業の参入促進・取引拡大を図るため、国内外の半導体関連の展示会への出展やビジネスマッチングセミナーの開催、産学官のネットワーク構築・強化に取り組む。
	③	

令和６年度　事務事業評価調書	施策名	半導体関連産業の振興	施策コード	0511

整理番号	重複施策	経費区分	事務事業名	事務事業概要	課・局室名	前年度からの繰越事業費(千円)	事業費(千円)	うち一般財源	執行体制 本庁	執行体制 出先機関	執行体制 人工計	フルコスト(千円)	一次政策評価 対応方針番号	一次政策評価 方向性	二次政策評価意見	ACTION 結果への対応(令和6年度) 次年度方向性	ACTION 結果への対応(令和6年度) 二次評価意見への対応状況
1201		事務	次世代半導体戦略室総合調整業務	次世代半導体戦略室の総合調整に関する事務	次世代半導体戦略室	0	0	0	3.0	0.0	3.0	24,030			【施策の緊急性、優先性・事務事業の有効性】 ※基本評価調書 <二次政策評価>参照		複合拠点の実現に向け、効果的・効率的な執行体制の構築を進めるてまいる。
1202		事務	ラピダス社との総合調整業務	ラピダス社との総合調整に関する事務	次世代半導体戦略室	0	0	0	1.0	0.0	1.0	8,010					
1203		事務	半導体関連産業の振興に関する企画調整等の事務	本道の半導体関連産業の振興に向けた施策の立案及び各機関との調整	次世代半導体戦略室	0	0	0	1.5	0.0	1.5	12,015					
1204		事務	物流や施設・周辺整備等に関する事務	ラピダス社の立地に向けた物流や各種インフラ等に関する関係機関等との調整	次世代半導体戦略室	0	0	0	3.0	0.0	3.0	24,030	①	改善(取組分析)		改善	
1205		事務	半導体関連産業の集積等に関する事務	本道への半導体関連産業の立地促進に向けた各種事務や北海道産業振興条例等に基づく認定事務	次世代半導体戦略室	0	0	0	0.5	0.0	0.5	4,005					
1206		事務	人材育成・確保に関する事務	半導体人材の育成・確保に向けた関係機関等との調整など各種事務	次世代半導体戦略室	0	0	0	0.5	0.0	0.5	4,005					
1207		事務	北海道次世代半導体産業立地推進本部等の各種会議に関する運営事務	北海道次世代半導体産業立地推進本部等の各種会議の運営事務	次世代半導体戦略室	0	0	0	1.5	0.0	1.5	12,015					
1208		事務	北海道半導体人材育成等推進協議会に関する事務	北海道経済産業局が主催する北海道半導体人材育成等推進協議会への参画及び各種事務の実施	次世代半導体戦略室	0	0	0	0.5	0.0	0.5	4,005					
1209		一般	半導体産業に係る複合拠点化事業費	ラピダス社の立地による経済効果を全道に波及させるため、複合拠点の実現にむけた取組を実施	次世代半導体戦略室	0	100,934	86,029	8.5	0.0	8.5	169,019	②	改善(取組分析)		改善	
計						0	100,934	86,029	20.0	0.0	20.0						